

Oracle® Fusion Cloud EPM

アクセス制御の管理



F28935-23

ORACLE®

Oracle Fusion Cloud EPM アクセス制御の管理、

F28935-23

Copyright © 2015, 2025, Oracle and/or its affiliates.

著者: EPM Information Development Team

This software and related documentation are provided under a license agreement containing restrictions on use and disclosure and are protected by intellectual property laws. Except as expressly permitted in your license agreement or allowed by law, you may not use, copy, reproduce, translate, broadcast, modify, license, transmit, distribute, exhibit, perform, publish, or display any part, in any form, or by any means. Reverse engineering, disassembly, or decompilation of this software, unless required by law for interoperability, is prohibited.

The information contained herein is subject to change without notice and is not warranted to be error-free. If you find any errors, please report them to us in writing.

If this is software, software documentation, data (as defined in the Federal Acquisition Regulation), or related documentation that is delivered to the U.S. Government or anyone licensing it on behalf of the U.S. Government, then the following notice is applicable:

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs) and Oracle computer documentation or other Oracle data delivered to or accessed by U.S. Government end users are "commercial computer software," "commercial computer software documentation," or "limited rights data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, reproduction, duplication, release, display, disclosure, modification, preparation of derivative works, and/or adaptation of i) Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs), ii) Oracle computer documentation and/or iii) other Oracle data, is subject to the rights and limitations specified in the license contained in the applicable contract. The terms governing the U.S. Government's use of Oracle cloud services are defined by the applicable contract for such services. No other rights are granted to the U.S. Government.

This software or hardware is developed for general use in a variety of information management applications. It is not developed or intended for use in any inherently dangerous applications, including applications that may create a risk of personal injury. If you use this software or hardware in dangerous applications, then you shall be responsible to take all appropriate fail-safe, backup, redundancy, and other measures to ensure its safe use. Oracle Corporation and its affiliates disclaim any liability for any damages caused by use of this software or hardware in dangerous applications.

Oracle®, Java, MySQL, and NetSuite are registered trademarks of Oracle and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.

Intel and Intel Inside are trademarks or registered trademarks of Intel Corporation. All SPARC trademarks are used under license and are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. AMD, Epyc, and the AMD logo are trademarks or registered trademarks of Advanced Micro Devices. UNIX is a registered trademark of The Open Group.

This software or hardware and documentation may provide access to or information about content, products, and services from third parties. Oracle Corporation and its affiliates are not responsible for and expressly disclaim all warranties of any kind with respect to third-party content, products, and services unless otherwise set forth in an applicable agreement between you and Oracle. Oracle Corporation and its affiliates will not be responsible for any loss, costs, or damages incurred due to your access to or use of third-party content, products, or services, except as set forth in an applicable agreement between you and Oracle.

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて

ドキュメントのフィードバック

1 アクセス制御の概要

アクセス制御を開く	1-2
グループの管理	1-2
EPM グループの作成	1-4
EPM グループの編集	1-5
EPM グループの削除	1-6
CSV ファイルへの Cloud EPM グループのエクスポート	1-6
ファイルからのユーザーのグループ割当のインポート	1-7
多数のグループへのユーザーの割当て	1-8
検索の使用	1-9

2 アプリケーション・レベルでの役割割当ての管理

アプリケーション役割の割当ての概要	2-1
Account Reconciliation	2-2
Enterprise Profitability and Cost Management	2-5
Financial Consolidation and Close	2-7
フリーフォーム	2-9
Narrative Reporting	2-11
Oracle Enterprise Data Management	2-11
Planning	2-12
Profitability and Cost Management	2-15
Tax Reporting	2-15
グループまたはユーザーへのアプリケーション役割の割当て	2-18

3 レポートの生成

ユーザーまたはグループの役割の割当レポートの生成	3-1
環境の役割の割当レポートの表示	3-2
ユーザー・ログイン・レポートの表示	3-3
ユーザー・グループ・レポートの表示	3-4

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Support へのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

ドキュメントのフィードバック

このドキュメントに対するフィードバックを送るには、Oracle Help Center トピックのページの下部にあるフィードバック・ボタンをクリックします。epmdoc_ww@oracle.com に電子メールを送信することもできます。

1

アクセス制御の概要

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management 環境および Oracle Fusion Cloud Enterprise Data Management 環境は、複数の保護層によって保護されています。アクセスは、役割ベースのアクセス(事前定義済役割)を使用して承認されたユーザーに制限されます。事前定義済役割割当ては、[Oracle Cloud コンソール](#)を使用して管理されます。たとえば、Planning テスト環境に属するレポートの表示をユーザー John Doe に許可する場合は、その環境の参照者の役割に割り当てる必要があります。詳細は、*管理者用スタート・ガイド*の事前定義済役割の理解を参照してください。

Cloud EPM ビジネス・プロセスまたは Oracle Enterprise Data Management Cloud の使用をより細かく制御できるようにするために、アクセス制御を通じてユーザーにアプリケーション固有の役割をさらに割り当てることができます。たとえば、ユーザーまたはグループを Planning アプリケーションの承認管理者の役割に割り当てることで、承認関連のアクティビティを実行できるようになります。

アプリケーションレベルで役割を割り当てても、ユーザーのアクセス権が拡張されるのみであることに注意することが重要です。これらのアプリケーション固有の役割では、事前定義済役割によって付与された権限を取り消したり制限することはできません。

アクセス制御を使用して、次のアクティビティを環境で実行できます。

- 「**グループの管理**」。 [グループの管理](#)を参照してください
- 「**ユーザーの管理**」。 [多数のグループへのユーザーの割当て](#)を参照してください
- 「**アプリケーション役割の管理**」。 [アプリケーション・レベルでの役割割当ての管理](#)を参照してください
- 「**役割の割当てレポート**」。次を参照してください:
 - [ユーザーまたはグループの役割の割当てレポートの生成](#)
 - [環境の役割の割当てレポートの表示](#)
- 「**ユーザー・ログイン・レポート**」。 [ユーザー・ログイン・レポートの表示](#)を参照してください
- 「**ユーザー・グループ・レポート**」。 [ユーザー・グループ・レポートの表示](#)を参照してください

Account Reconciliation の **アクセス制御**で特定の機能が提供されます。詳細は、*Account Reconciliation の管理*の次のトピックを参照してください:


- チームの使用
- ユーザーの管理
- Account Reconciliation でのパワー・ユーザーのセキュリティ

チュートリアル・リンク

[Cloud EPM ビジネス・プロセスでのセキュリティの設定](#)チュートリアルに従って、Cloud EPM ビジネス・プロセスのセキュリティのレイヤー、およびアクセス制御とアクセス権限を使用したセキュリティの管理方法について学習します。

アクセス制御を開く

アクセス制御を開くには:

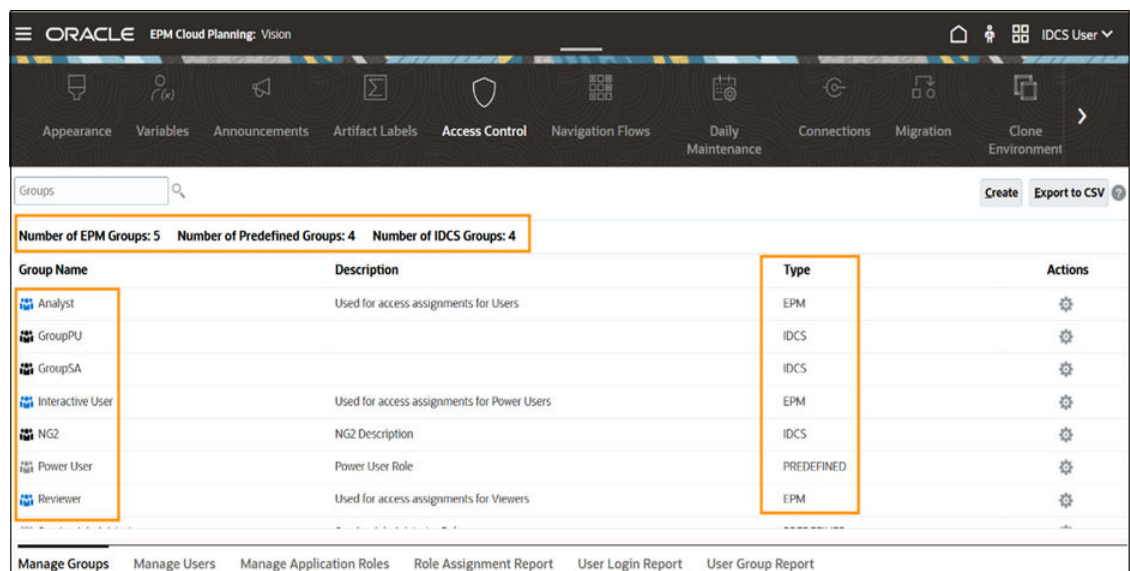
1. サービス管理者またはアクセス制御 - 管理のアプリケーション役割を持つユーザーとして環境にアクセスします。
2. 次のステップを実行します:
 -  (ナビゲータ)、「**アクセス制御**」の順にクリックします。
 - 「**ツール**」、「**アクセス制御**」の順にクリックします。
 - **Narrative Reporting** のみ: 「**アクセス制御**」をクリックします。

グループの管理

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management では、次の 3 つのタイプのグループが認識されます:

- **PREDEFINED**: これらのグループは、それぞれの事前定義済役割について自動的に作成されます。すべてのユーザーが事前定義済役割(パワー・ユーザーなど)に基づいて PREDEFINED グループに割り当てられます。
- **EPM**: これらは、アクセス制御で作成したグループです。アイデンティティ・コンソールで作成することはできません。また、アイデンティティ・コンソールには表示されません。
- **IDCS**: これらは、Oracle Identity Cloud で作成したグループです。アイデンティティ・プロバイダ(Okta や Azure AD など)と同期できます。アクセス制御に表示されますが、アクセス制御を介して作成することはできません。

「**グループの管理**」タブでは、簡単に区別できるように、グループがタイプとイメージによって分類されます。特定のグループを検索する場合の手順は、[検索の使用](#)を参照してください。



Group Name	Description	Type	Actions
Analyst	Used for access assignments for Users	EPM	
GroupPU		IDCS	
GroupSA		IDCS	
Interactive User	Used for access assignments for Power Users	EPM	
NG2	NG2 Description	IDCS	
Power User	Power User Role	PREDEFINED	
Reviewer	Used for access assignments for Viewers	EPM	

PREDEFINED グループ

ユーザー割当てを参照できるように、アクセス制御には事前定義済役割のユーザーが PREDEFINED グループとしてリストされます。



重要な考慮事項:

- PREDEFINED グループは、EPM グループのメンバーとして割り当てることができます。
- PREDEFINED グループは編集できません。
PREDEFINED グループを表示するには、そのグループに対して「アクション」の下にある「表示」を選択します。そのグループに割り当てられているすべての Cloud EPM ユーザーのリストが表示されます。

事前定義済役割の詳細は、*管理者用スタート・ガイド*の事前定義済役割の理解を参照してください

EPM グループ

「**グループの管理**」画面の次のオプションを使用して、EPM グループを作成および管理できます。

- 「**作成**」ボタン - 新しい EPM グループを作成します。[EPM グループの作成](#)を参照してください
- 「**CSV にエクスポート**」ボタン - EPM グループを CSV ファイルにエクスポートします。[CSV ファイルへの Cloud EPM グループのエクスポート](#)を参照してください
- 「**編集**」 (「アクション」) - グループ・リストで選択した行の EPM グループを編集します。[EPM グループの編集](#)を参照してください
- 「**削除**」 (「アクション」) - グループ・リストで選択した行の EPM グループを削除します。[EPM グループの削除](#)を参照してください

重要な考慮事項:

- EPM グループは、より大きい EPM グループにメンバーとして割り当てることができます。
- 「アクセス制御」を使用して、ファイルからグループ情報をインポートしてグループを作成することはできません。グループをインポートするには、「移行」または `createGroups EPM` 自動化コマンドを使用できます。

IDCS グループ

IDCS グループを使用して、事前定義済役割を複数の Cloud EPM ユーザーに割り当てることができます。*管理者用スタート・ガイド*の **Oracle Cloud Identity Console** での **Identity Cloud Service** グループを使用したユーザーへの事前定義済役割の割当てまたは **Oracle Cloud コンソール**での **Identity Cloud Service** グループを使用したユーザーへの事前定義済役割の割当てを参照してください。

重要な考慮事項:

- IDCS グループは編集できません。
IDCS グループを表示するには、そのグループに対して「アクション」の下にある「表示」を選択します。そのグループに割り当てられているすべての Cloud EPM ユーザーのリストが表示されます。
- IDCS グループは、アプリケーション役割および EPM グループに割り当てることができます。

▲ 注意:

IDCS グループが EPM または PREDEFINED グループと名前を共有している場合、あるいは名前が 256 文字を超えている場合、アクセス制御には表示されません。そのような IDCS グループのユーザーはログインできないことを理解することが重要です。

トラブルシューティング

オペレーション・ガイドのユーザー、役割およびグループ管理の問題の解決を参照してください。

EPM グループの作成

サービス管理者または「アクセス制御 - 管理」のアプリケーション役割を持つユーザーは、EPM グループを作成できます。Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ユーザーおよびその他のグループは、グループのメンバーになることが可能です。このオプションを使用して、IDCS または PREDEFINED グループを作成することはできません。

✎ ノート:

また、「移行」または createGroups EPM 自動化コマンドを使用して、ファイルからグループ情報をインポートしてグループを作成できます。

グループを作成するには:

1. **アクセス制御**を開きます。[アクセス制御のオープン](#)を参照してください。
2. 「**グループの管理**」で「**作成**」をクリックします。
3. 「**グループの作成**」で、次のステップを実行します。
 - a. 「**名前**」に、役割の名前を入力します(最大 256 文字)。グループ名では大文字と小文字は区別されません。
Cloud EPM では、IDCS または PREDEFINED グループと同一の名前を持つグループは作成できません。
 - b. **オプション**: グループの説明を入力します。
4. **オプション**: グループを追加して、ネストされたグループを作成します。
 - a. 「**使用可能なグループ**」で、グループを検索します。検索機能の使用手順は、[検索の使用](#)を参照してください。
検索条件に一致するすべてのタイプのグループがリストされます。デフォルトで、このリストは「**グループ名**」値でソートされます。
 - b. 「**使用可能なグループ**」から、新しいグループのメンバー・グループを選択します。
 - c. 「**移動**」をクリックします。
選択したグループは、「**割り当てられたグループ**」の下に表示されます。「**割り当てられたグループ**」から、割り当てられたグループを削除するには、削除するグループを選択して、「**削除**」をクリックします。
5. **オプション**: Cloud EPM ユーザーをグループのメンバーとして追加します。

グループ・メンバーとして追加できるのは、事前定義済役割に割り当てられているユーザーのみです。

- a. 「ユーザー」をクリックします。
 - b. 「使用可能なユーザー」で、ユーザーを検索します。手順については、[検索の使用](#)を参照してください。
検索条件に一致するユーザーがリストされます。デフォルトで、このリストは「ユーザー・ログイン」値でソートされます。
 - c. 「使用可能なユーザー」から、グループに追加するユーザーを選択します。
 - d. 「移動」をクリックします。
6. 「保存」をクリックします。
 7. 「OK」をクリックします。

EPM グループの編集

サービス管理者または「アクセス制御 - 管理」のアプリケーション役割を持つユーザーは、グループ名などの EPM グループ・プロパティを編集できます。グループ名を変更しても、グループに割り当てられたアプリケーション役割およびその他のセキュリティ割当ては影響されません。このオプションを使用して、IDCS または PREDEFINED グループを編集することはできません。


グループを編集するには:

1. **アクセス制御**を開きます。[アクセス制御のオープン](#)を参照してください。
2. **オプション: 「グループの管理」**で、編集するグループを探します。検索機能の使用手順は、[検索の使用](#)を参照してください。

検索条件に一致するすべてのタイプのグループがリストされます。デフォルトで、このリストは「グループ名」値でソートされます。

ノート:

グループ名には、256 文字まで使用できます。たとえば、「使用可能なグループ」列に表示される文字は、画面解像度に基づいて切り捨てられる場合があります。


3. 編集するグループの行で  (「アクション」)をクリックして、「編集」を選択します。
4. **オプション:** グループ名を編集します。グループ名を変更しても、グループを使用して行われたセキュリティ割当てに影響はありません。リストされた IDCS または PREDEFINED グループと同一の名前を持つグループの名前を変更することはできません。
5. グループ割当てを編集します:
 - a. **オプション:** ネストされたグループを追加します。
 - 「使用可能なグループ」で、グループを検索します。検索機能の使用手順は、[検索の使用](#)を参照してください。
検索条件に一致するすべてのタイプのグループがリストされます。デフォルトで、このリストは「グループ名」値でソートされます。
 - 「使用可能なグループ」からグループを選択し、「移動」をクリックします。
選択したグループが「割り当てられたグループ」に表示されます。

- b. **オプション:** ネストされたグループを削除します。
 - 「**割り当てられたグループ**」から、除去するグループを選択します。
 - 「**削除**」をクリックします
6. ユーザー割当てを編集します:
 - a. 「**ユーザー**」をクリックします。
 - b. **オプション:** グループにユーザーを追加します。
 - 「**使用可能なユーザー**」で、グループ・メンバーとして割り当てることができるユーザーを検索します。検索機能の使用手順は、[検索の使用](#)を参照してください。
検索条件に一致するユーザーがリストされます。デフォルトで、このリストは「**ユーザー・ログイン**」値でソートされます。
 - 「**使用可能なユーザー**」からユーザーを選択し、「**移動**」をクリックします。
選択したユーザーが、「**割り当てられたユーザー**」リストに表示されます。
 - c. **オプション:** グループからユーザーを削除します。
 - 「**割り当てられたユーザー**」から、除去するユーザーを選択します。
 - 「**削除**」をクリックします。
7. 「**保存**」をクリックします。
8. 「**OK**」をクリックします。

EPM グループの削除

サービス管理者または「アクセス制御 - 管理」のアプリケーション役割を持つユーザーは、EPM グループを削除できます。EPM グループを削除しても、グループ・メンバーは削除されません。このオプションを使用して、IAM または PREDEFINED グループを削除することはできません。

グループを削除するには:

1. **アクセス制御**を開きます。[アクセス制御のオープン](#)を参照してください。
2. **オプション:** 「**グループの管理**」で、削除するグループを検索します。検索機能の使用手順は、[検索の使用](#)を参照してください。
検索条件に一致するグループがリストされます。デフォルトで、このリストは「**グループ名**」値でソートされます。
3. 削除する EPM グループの行で  (「アクション」)をクリックして、「**削除**」を選択します。
4. 「**はい**」をクリックして削除操作を確認します。
5. 「**OK**」をクリックします。

CSV ファイルへの Cloud EPM グループのエクスポート

サービス管理者または「アクセス制御 - 管理」のアプリケーション役割を持つユーザーは、「**CSV にエクスポート**」を使用して、EPM グループの名前および説明を Groups.csv ファイルにエク

サポートできます。このオプションを使用して、PREDEFINED または IDCS グループをエクスポートすることはできません。

EPM グループが存在しない場合、「CSV にエクスポート」は無効になっています。このオプションを使用するには、アクセス制御に少なくとも 1 つの EPM グループが必要です。

1. **アクセス制御**を開きます。[アクセス制御のオープン](#)を参照してください。
「**グループの管理**」タブに、使用可能なすべてのグループがリストされます。
2. 「**CSV にエクスポート**」をクリックして、すべての EPM グループをエクスポートします。
3. 画面の指示に従って、Groups.csv ファイルを開くか保存します。

ファイルからのユーザーのグループ割当のインポート

サービス管理者または「アクセス制御 - 管理」のアプリケーション役割を持つユーザーは、カンマ区切り値(CSV)ファイルからユーザーの EPM グループ割当てをインポートして、既存のアクセス制御グループに新しい割当てを作成できます。Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management は、新しいグループ割当てに基づいて、アプリケーション・レベルおよびアーティファクト・レベルのセキュリティ割当てを強制します。

ノート:

インポート・ファイルで識別されたすべてのユーザー・ログインは、アイデンティティ・ドメインに存在する必要があります。ファイルに含まれるすべてのグループ名は、アクセス制御に存在する必要があります。このインポート・プロセスを使用してグループを作成することはできません。新しいグループ割当てを作成できるのみです。ユーザーの現在のグループ割当てを削除することはできません。

インポート CSV ファイル形式は次のようになります。

```
User Login,Group
jdoe, Example_grp1
jane.doe@example.com, Example_grp2
```

```
User Login,First Name,Last Name,Email,Direct,Group
jdoe, John, Doe, jdoe@example.com, Yes, Example_grp1
jane.doe@example.com, Jane, Doe, jane.doe@example.com, No, Example_grp2
```

この形式は、CSV バージョンのユーザー・グループ・レポートと同じです。この形式を使用すると、インポート・プロセスでは「ユーザー・ログイン」と「グループ」を除くすべての列が無視されます。インポート・ファイルを作成する簡単な方法は、現在のユーザー・グループ・レポートをエクスポートし、必要に応じてそれを変更することです。[ユーザー・グループ・レポートの表示](#)を参照してください。

ユーザーのグループ割当てをインポートするには:

1. **アクセス制御**を開きます。[アクセス制御のオープン](#)を参照してください。
2. 「**ユーザー・グループ・レポート**」をクリックします。
3. 「**CSV からインポート**」をクリックします。
4. 「**ユーザー・グループ割当 CSV のインポート**」の「**参照**」を使用して、インポート・ファイルを選択します。
5. 「**インポート**」をクリックします。
6. 「**はい**」をクリックします。





インポート・プロセスが完了すると、処理された割当の合計数およびステータスを示す確認ダイアログ・ボックスが表示されます。


多数のグループへのユーザーの割当て

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ユーザーは、アクセス制御を使用して保持される多数のグループのメンバーになることが可能です。サービス管理者またはアクセス制御 - 管理のアプリケーション役割を持つユーザーは、ユーザーを多数のグループに割り当てることができます。

ノート:

いつでも、1人のユーザーを直接または間接的に最大 1,000 グループのメンバーにできます。

1. **アクセス制御**を開きます。[アクセス制御のオープン](#)を参照してください。
2. 「**ユーザーの管理**」をクリックします。
3. グループに割り当てるユーザーを検索します。検索機能の使用手順は、[検索の使用](#)を参照してください。
検索条件に一致するユーザーがリストされます。デフォルトで、このリストは「**ユーザー・ログイン**」値でソートされます。
4. ユーザー・リストの行にある  (「アクション」)をクリックし、「**編集**」を選択します。
「**ユーザーの編集**」画面が表示され、現在のグループ・メンバーシップ(「**割り当てられたグループ**」)を含む詳細なユーザー情報がリストされます。この画面では、グループ割当てのみ変更できます。
5. ユーザーを割り当てるグループを検索します。検索機能の使用手順は、[検索の使用](#)を参照してください。
検索条件に一致する EPM グループがリストされます。デフォルトで、このリストは「**グループ名**」値でソートされます。
6. 次の処理を完了します:
 - 追加のグループをユーザーに割り当てるには、「**使用可能なグループ**」から1つ以上のグループを選択し、 (「**移動**」)をクリックして、選択したグループを「**割り当てられたグループ**」に移動します。または、 (「**すべて移動**」)をクリックして、「**使用可能なグループ**」のすべてのグループを「**割り当てられたグループ**」に移動します。
 - ユーザーに割り当てられたグループを削除するには、「**割り当てられたグループ**」から1つ以上のグループを選択し、 (「**削除**」)をクリックして、選択したグループを「**使用**

可能なグループ」に移動します。または、 (「すべて削除」)をクリックして、「割り当てられたグループ」のすべてのグループを「使用可能なグループ」に移動します。

7. 「保存」をクリックします。
8. 「OK」をクリックします。

検索の使用

ユーザーおよびグループのアーティファクトのインテリジェント検索は、アクセス制御全体で同様に機能します。


ユーザー属性(ユーザー名、名、姓または電子メール ID)、グループ名または役割名のいずれかの文字列を使用して、特定のユーザー、グループまたは役割を検索します。たとえば、グループの検索に文字列 `st` を使用すると、文字列 `st` が含まれるすべてのグループ名(`TestGroup`、`Strategic_Planner`、`AnalystsGroup` など)が表示されます。同様に、ユーザーの検索に文字列 `jd` を使用すると、ユーザー名、名、姓または電子メール・アドレスに文字列 `jd` が含まれるユーザーがリストされます。

この検索オプションでは、ワイルドカード(*)はサポートされていません。


ノート:

一部のアクセス制御画面(「アプリケーション役割の割当」、「役割の割当レポート」、「ユーザー・グループ・レポート」など)では、検索の選択肢が提供されます。検索を開始する前に適切な選択を行ってください。

ユーザーを検索するには:

1. ユーザー検索機能を使用できる「ユーザーの管理」などの画面にアクセスします。
2. 検索フィールドで、ユーザー属性(ユーザー名、名、姓または電子メール ID)の部分文字列を入力します。
3.  (「検索」)をクリックします。
検索条件に一致するユーザーの使用可能なすべてのプロパティが検索結果に表示されます。デフォルトで、このリストは「ユーザー・ログイン」値でソートされます。

グループを検索するには:

- グループ検索機能を使用できる「グループの管理」などの画面にアクセスします。
- 検索フィールドで、グループ名の部分文字列を入力します。
-  (「検索」)をクリックします。
検索条件に一致するグループの名前と説明が検索結果に表示されます。デフォルトで、このリストは「グループ名」値でソートされます。

Create Group Save Close

* Name:

Description:

Groups Users


Available Users

First Name	Last Name	Email	User Login
John	Doe	john.doe@exam...	jdoe
Jane	Doe	jane.doe@exam...	jdoe31
Jane	Doe	jane.x.doe@exam...	jdoe41

Assigned Users

First Name	Last Name	Email	User Login
No records were found.			

役割の割当レポートの役割に基づいてユーザーを検索するには:

- 「役割の割当レポート」タブにアクセスします。
- 検索ドロップダウン・リストから、「ユーザー」または「役割」を選択します。
- 検索フィールドに検索文字列を入力します。
-  (「検索」)をクリックします。

検索条件に一致する役割に割り当てられたユーザーの使用可能なすべての情報が検索結果に表示されます。デフォルトで、このリストは「ユーザー・ログイン」値でソートされます。

2

アプリケーション・レベルでの役割割当ての管理

アクセス制御は、次の Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ビジネス・プロセスに適用されます:

- Account Reconciliation
- Enterprise Profitability and Cost Management
- Financial Consolidation and Close
- フリーフォーム
- Narrative Reporting
- Oracle Fusion Cloud Enterprise Data Management
- Planning
- Profitability and Cost Management
- Tax Reporting

アプリケーション役割の割当ての概要

アクセス制御を使用すると、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ユーザーにアプリケーション・レベルでの役割を割り当てることで、そのアクセス権の機能を事前定義済役割を超えて拡張できます。これらの役割は、アプリケーション役割と呼ばれます。サービス管理者または「アクセス制御 - 管理」のアプリケーション役割を持つユーザーは、アクセス制御で作成および管理されるユーザーおよびグループにアプリケーション固有の役割とデータ権限を付与できます。

たとえば、デフォルトでは、サービス管理者およびパワー・ユーザーのみがデータ統合にアクセスできます。「ユーザー」または「参照者」の事前定義済役割を持つユーザーが統合プロセスに参加できるようにするために、サービス管理者は「データ統合 - 作成」のアプリケーション役割を割り当てることができます。

Note:

アプリケーション役割は、ユーザーのアクセス権の拡張のみを実行できます。事前定義済役割によって付与された権限を縮小することはできません。事前定義済役割についてさらに学習するには、*管理者用スタート・ガイド*の事前定義済役割の理解を参照してください。

使用可能な Cloud EPM のアプリケーション役割およびそれらの事前定義済役割マッピングの詳細は、次を参照してください:

- [Account Reconciliation](#)
- [Enterprise Profitability and Cost Management](#)

- Financial Consolidation and Close
- フリーフォーム
- Narrative Reporting
- Oracle Enterprise Data Management
- Planning
- Profitability and Cost Management
- Tax Reporting

 **Note:**

オンプレミス環境から Cloud EPM にアプリケーションを移行する場合は、*移行の管理*の Cloud EPM への移行のための役割マッピングを参照してください。

アプリケーション役割を割り当てるためのベスト・プラクティス

推奨されるベスト・プラクティスは、必要に応じて、追加の権限に適合する最下位レベルの役割を割り当てることです。ここでは、事前定義済役割に権限がないユーザーに、アプリケーション役割を付与できる状況の例を示します。

- 照合の準備をする必要がある参照者に、「**策定者**」のアプリケーション役割を追加します
- レポートの設計のみを作業し、残りのアプリケーション機能は実行しないレポート・デザイナーがいるとします。参照者の役割を付与し、「**レポートの管理**」のアプリケーション役割を割り当てることができます
- パワー・ユーザーがアラート・タイプを管理できるようにします。これにより、「**アラート・タイプの管理**」のアプリケーション役割を割り当てることができます

 **Note:**

権限の付与は追加のみです。つまり、ユーザーの事前定義済役割に含まれる権限に追加できます。ユーザーの事前定義済役割に自動的に付与された権限は削除できません。

Account Reconciliation

次の表では、Account Reconciliation のアプリケーション役割をリストして説明するとともに、それらを事前定義済役割にマップします。

 **Note:**

事前定義済役割はすべて、Account Reconciliation のデータに対するアクセス権に基づいてデータ交換の詳細データにドリル・スルーできます。

Table 2-1 Account Reconciliation のアプリケーション役割

アプリケーション 役割	説明	この事前定義済役割 に含まれている
アクセス制御 - 管理	グループの管理、グループまたはユーザーへのアプリケーション役割の割当て、および使用可能なレポートの生成と表示を含め、アクセス制御を使用してすべてのアクティビティを実行します。	サービス管理者
アクセス制御 - 表示	アクセス制御を使用して、役割の割当てレポート、ユーザー・ログイン・レポート、グループの割当てレポート、ユーザー・グループ・レポートなど、ユーザー・セキュリティに関連するレポートを生成および表示します。この役割を持つユーザーは、アクセス制御でアプリケーション役割の割当て、グループの管理または設定の変更を行うことはできません。	サービス管理者
アラート・タイプ - 管理	アラート・タイプを管理し、特定の問題が発生したときに従う手順を定義します。	サービス管理者
お知らせ - 管理	「ようこそ」パネルでユーザーに表示されるお知らせを管理します。これらは、システム・メンテナンスやジョブの実行など、将来のイベントを示すことができます。	サービス管理者
監査 - 表示	すべての監査詳細へのアクセス権を提供します。ただし、このアプリケーション役割では、セキュリティ・スコープ外の照合については照合アクション・ダイアログの起動を有効にしません。	サービス管理者
通貨 - 管理	通貨、レート・タイプおよび通貨バケットを構成します。この役割を持つユーザーは、システムでアクティブな通貨コードを制御できます。	サービス管理者
ダッシュボード - 管理	カスタム・ダッシュボードを構築および管理します。この役割を持つユーザーは、次のことを実行できます： <ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスの構成 追加、編集、複製および削除 インポートおよびエクスポート 	サービス管理者
データ統合 - 管理者	データ統合のすべての機能アクティビティを実行します。この役割を持つユーザーは、次のものを作成および実行します： <ul style="list-style-type: none"> ソース・システムとターゲット・システム間の統合 パイプライン・アクティビティ EPM 統合エージェントを使用したオンプレミス・ソースからのデータおよびメタデータの抽出および変換 	サービス管理者
データ統合 - 作成	データ統合を使用して、ソース・システムとターゲット・システム間でデータを統合するマッピングを作成します。この役割は様々な実行時オプションを使用してデータ・ルールを定義できます。	サービス管理者
データ統合 - 実行	この役割を持つユーザーは、データ統合を使用してソースとターゲットの間の統合を実行します。 これがユーザーに割り当てられている唯一の役割である場合、かつパワー・ユーザーまたはサービス管理者でない場合、統合の詳細を表示することもできますが、変更を加えることはできません。	サービス管理者
データ・ロード - 管理	データ統合を使用してデータをロードし、それらの同じデータ・ロード・パラメータを保存するために、データ・ロード定義を定義します。 データ・ロードの最新ステータスを表示し、ユーザー変更要求の処理をモニターします。	サービス管理者

Table 2-1 (Cont.) Account Reconciliation のアプリケーション役割

アプリケーション 役割	説明	この事前定義済役 割に含まれている
ジョブ - 表示	Account Reconciliation ジョブおよびジョブ・ステータスを表示します。	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者
照合タイプ - 管理	この役割を持つユーザーは、照合タイプ、調整属性、サポート属性、仕訳列およびグループ属性を管理できます。	サービス管理者
照合タイプ - 表示	この役割を持つユーザーは、照合タイプ、調整属性、サポート属性および仕訳列の詳細を表示できます。	サービス管理者
組織 - 管理	プロファイルおよび照合に階層組織単位構造を割り当てます。	サービス管理者
期間 - 管理	期間プロパティを管理します。期間のステータスの設定、データのロード、および既存の期間の他の操作をすることもできます。	サービス管理者
期間 - 表示	この役割を持つユーザーは、照合に関連付けられた期間数を表示し(読取りアクセス権のみ)、期間にデータをロードすることもできます。	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者
プロファイル - 表示	この役割を持つユーザーは、表示可能な照合にあわせて、ワークフローが割り当てられているプロファイルにアクセスできます。	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者 ユーザー
プロファイルと照合 - 管理	プロファイル、照合および属性を管理します 「 パワー・ユーザーのセキュリティ 」画面で、この役割のセキュリティ・スコープを設定できます。	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者
パブリック・フィルタとビュー - 管理	フィルタは、リスト・ビューおよびレポートに表示されるレコードを制御します。フィルタは、プロファイル、照合または照合取引の属性(システム属性、残高および残高詳細)に対して適用できます。 この役割を持つユーザーは、複雑なフィルタおよびロジックを作成し、フィルタが適用される順序を決定できます。	サービス管理者
照合 - コメント作成者	照合を表示して、照合または照合のトランザクションにコメントを追加します。	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者 ユーザー
照合 - 策定者	この役割を持つユーザーは、照合の策定、パネルの割当て、事前マップ済データのインポート、および照合を送信、請求、解除するための添付の追加を行います。	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者 ユーザー
照合 - レビュー担当者	この役割を持つユーザーは、照合のレビュー、パネルの割当て、および照合を承認、却下、請求、解除するための添付の追加を行います。	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者 ユーザー
レポート - 管理	アプリケーション設定を構成し、照合レポートを表示します。	サービス管理者

Table 2-1 (Cont.) Account Reconciliation のアプリケーション役割

アプリケーション 役割	説明	この事前定義済役割 に含まれている
チーム - 管理	この役割を持つユーザーは、チームを追加、編集または削除し、チームのメンバーを管理できます。	<ul style="list-style-type: none"> • パワー・ユーザー • サービス管理者
ユーザー - 管理	この役割を持つユーザーは、チームのメンバーを管理できません。	<ul style="list-style-type: none"> • パワー・ユーザー • サービス管理者

Enterprise Profitability and Cost Management

次の表では、Enterprise Profitability and Cost Management のアプリケーション役割をリストして説明するとともに、それらを事前定義済役割にマップします。

Table 2-2 Enterprise Profitability and Cost Management のアプリケーション役割

アプリケーション 役割	説明	この事前定義済役割に 含まれている
アクセス制御 - 管理	グループの管理、グループまたはユーザーへのアプリケーション役割の割当て、および使用可能なレポートの生成と表示を含め、アクセス制御を使用してすべてのアクティビティを実行します。	サービス管理者
アクセス制御 - 表示	アクセス制御を使用して、役割の割当てレポート、ユーザー・ログイン・レポート、グループの割当てレポート、ユーザー・グループ・レポートなど、ユーザー・セキュリティに関連するレポートを生成および表示します。この役割を持つユーザーは、アクセス制御でアプリケーション役割の割当て、グループの管理または設定の変更を行うことはできません。	サービス管理者
アドホック - 作成	アド・ホック・グリッドの作成、表示、変更および保存を行います。	パワー・ユーザー
アドホック - 読取り専用ユーザー	すべてのアド・ホック機能を実行しますが、アド・ホック・グリッドに書き戻したり、 Data Management を使用してデータをロードしたりすることはできません。	脚注 を参照してください
アドホック - ユーザー	アド・ホック・グリッドの表示や変更およびアド・ホック操作を行います。アド・ホック・ユーザーはアド・ホック・グリッドを保存できません。	ユーザー
アプリケーション - 一括割当て	フォーム・グリッド内で一括割当てルールを実行します。	サービス管理者
お知らせ - 管理	「ようこそ」パネルでユーザーに表示されるお知らせを管理します。これらは、システム・メンテナンスやジョブの実行など、将来のイベントを示すことができます。	サービス管理者
計算 - 実行	計算コントロール・ページで、モデルを計算します。	<ul style="list-style-type: none"> • パワー・ユーザー • サービス管理者 • ユーザー
計算履歴 - 削除	計算分析ページから、完了済計算の選択したインスタンスを削除します。計算履歴の削除では、データは削除されません。単に、実行された計算の記録済インスタンスが削除されます。	<ul style="list-style-type: none"> • パワー・ユーザー • サービス管理者 • ユーザー

Table 2-2 (Cont.) Enterprise Profitability and Cost Management のアプリケーション役割

アプリケーション 役割	説明	この事前定義済役割に 含まれている
計算履歴 - 表示	計算分析ページから、完了済計算を表示します。	<ul style="list-style-type: none"> • パワー・ユーザー • サービス管理者 • ユーザー
ダッシュボード - 管理	<p>プランニングおよび操作ダッシュボードを構築および管理します。この役割を持つユーザーは、次のことを実行できます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 設定された権限に基づいて、ダッシュボードを追加、編集、複製および削除する • ダッシュボードをインポートおよびエクスポートする 	サービス管理者
データ統合 - 作成	データ統合を使用して、ソース・システムとターゲット・システム間でデータを統合するマッピングを作成します。ユーザーは様々な実行時オプションを使用してデータ・ルールを定義できます。	パワー・ユーザー
データ統合 - ドリルスルー	データのソース・システムへドリル・スルーします。	<ul style="list-style-type: none"> • パワー・ユーザー • ユーザー
データ統合 - 実行	<p>この役割を持つユーザーは、データ統合を使用してソースとターゲットの間の統合を実行します。</p> <p>これがユーザーに割り当てられている唯一の役割である場合、かつパワー・ユーザーまたはサービス管理者でない場合、統合の詳細を表示することもできますが、変更を加えることはできません。</p>	パワー・ユーザー
ドキュメント - 管理	<p>ドキュメントを構築および管理します。この役割を持つユーザーは、次のことを実行できます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 設定された権限に基づいて、ドキュメントを追加、編集、複製および削除する • ドキュメントをインポートおよびエクスポートする 	サービス管理者
モデル - 作成	モデリング・ページで新しいモデルを作成します。	<ul style="list-style-type: none"> • パワー・ユーザー • サービス管理者
モデル - 削除	モデリング・ページでモデルを削除します。モデルの削除では、モデル内のすべてのルールも削除されます。	サービス管理者
モデル - 表示	デザイナー・ページで、モデルとその関連付けられたルールを表示します。	<ul style="list-style-type: none"> • パワー・ユーザー • サービス管理者 • ユーザー • 参照者
モデル検証 - 実行	モデル検証ページで、モデルを検証します。	<ul style="list-style-type: none"> • パワー・ユーザー • サービス管理者 • ユーザー
POV - 作成	計算コントロール・ページで、新しい視点を作成します。	<ul style="list-style-type: none"> • パワー・ユーザー • サービス管理者
POV - 削除	計算コントロール・ページで、視点を削除します。視点の削除では、関連データおよび視点の計算履歴ページも削除されます。計算コントロール・ページから、視点も削除されます。	サービス管理者
POV データ - クリア	計算コントロール・ページの視点から、その視点を削除せずにデータをクリアします。	<ul style="list-style-type: none"> • パワー・ユーザー • サービス管理者
POV データ - コピー	計算コントロール・ページで、1つの視点から別の視点にデータをコピーします。	<ul style="list-style-type: none"> • パワー・ユーザー • サービス管理者

Table 2-2 (Cont.) Enterprise Profitability and Cost Management のアプリケーション役割

アプリケーション役割	説明	この事前定義済役割に含まれている
POV ステータス - 編集	計算コントロール・ページの「 視点の編集 」ダイアログ・ボックスから、視点のステータスを変更します。視点の使用可能なステータスは、「ドラフト」、「公開済」、「アーカイブ済」です。	サービス管理者
利益曲線 - 作成	「インテリジェンス」クラスタの「 利益曲線 」タブで、利益曲線を作成します。	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者
利益曲線 - 編集	「インテリジェンス」クラスタの「 利益曲線 」タブで、利益曲線を編集します。	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者
利益曲線 - 実行	「インテリジェンス」クラスタの「 利益曲線 」タブで、利益曲線を実行します。	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者 ユーザー 参照者
ルール - 作成/編集	デザイナー・ページで、配賦ルール、カスタム計算ルールまたはルール・セットを作成または編集します。	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者 ユーザー
ルール - 削除	デザイナー・ページで、配賦ルール、カスタム計算ルールまたはルール・セットを削除します。	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者 ユーザー
ルール・バランシング - 実行	ルール・バランシング・レポートを表示して、各ルールの影響を確認します。	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者 ユーザー
ルール - 一括編集	デザイナー・ページの「 一括編集 」タブにアクセスして、複数のルールの編集を一度に行います。	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者 ユーザー
配賦のトレース - 実行	「インテリジェンス」クラスタの「 配賦のトレース 」タブで、配賦金額をトレースします。	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者 ユーザー 参照者

脚注: この役割はいずれの事前定義済役割にもマップされず、アクティブ化するにはユーザーまたはグループへの割当てが必要です

Financial Consolidation and Close

次の表では、次のアプリケーションの Financial Consolidation and Close の役割をリストして説明するとともに、それらを事前定義済役割にマップします:

表 2-3 Financial Consolidation and Close のアプリケーション役割

アプリケーション役割	説明	この事前定義済役割に含まれている
アクセス制御 - 管理	グループの管理、グループまたはユーザーへのアプリケーション役割の割当て、およびユーザー・セキュリティに関するレポートの生成を行います。	サービス管理者

表 2-3 (続き) Financial Consolidation and Close のアプリケーション役割

アプリケーション 役割	説明	この事前定義済役割に 含まれている
アクセス制御 - 表示	役割の割当てレポート、ユーザー・ログイン・レポート、ユーザー・グループ・レポートなど、ユーザー・セキュリティに関するレポートを表示しますが、アクセス制御でアプリケーション役割の割当てやグループの管理を行ったり、その他の更新操作を実行することはできません。	サービス管理者
アドホック - 作成	アド・ホック・グリッドの作成、表示、変更および保存を行います。	パワー・ユーザー
アドホック - 読取り専用ユーザー	すべてのアド・ホック機能を実行しますが、アド・ホック・グリッドに書き戻したり、 Data Management を使用してデータをロードしたりすることはできません。	脚注を参照 してください
アドホック - ユーザー	アド・ホック・グリッドの表示や変更およびアド・ホック操作を行います。アド・ホック・ユーザーはアド・ホック・グリッドを保存できません。	ユーザー
お知らせ - 管理	お知らせを構築および管理します。この役割を持つユーザーは、お知らせを追加、編集、複製および削除できません。	サービス管理者
アプリケーション - 一括割当て	フォーム・グリッド内で一括割当てルールを実行します。	サービス管理者
連結仕訳 - 承認	承認のために送信された連結仕訳を承認するか、送信された仕訳を却下します。	脚注を参照
連結仕訳 - 承認後の自動転記	承認者が連結仕訳を承認した後、その仕訳を自動的に転記できます。仕訳を承認したユーザーは、転記ユーザーにもなります。	脚注を参照
連結仕訳 - 作成	連結仕訳および連結仕訳テンプレートを作成、変更および削除します。	脚注を参照
連結仕訳 - 期間の管理	連結仕訳の期間を開くか、仕訳の期間を閉じます。承認済の仕訳または転記を戻し済の自動逆仕訳が期間内にある場合は、期間を閉じることはできません。作業中または送信済の仕訳が含まれる期間を閉じようとすると、期間に未転記の仕訳が見つかったという警告メッセージが表示されますが、期間を閉じることができます。	脚注を参照
連結仕訳 - 転記	完了した連結仕訳または送信および承認された連結仕訳を転記します。まず、連結仕訳を転記する各シナリオの期間を開く必要があります。	脚注を参照
連結仕訳 - 送信	連結仕訳を承認のために送信するか、完了ステータスの連結仕訳を却下します。	脚注を参照
連結仕訳 - 転記の戻し	連結仕訳の転記を戻します。仕訳のメンバーに対する書込みアクセス権が必要です。	脚注を参照
データ統合 - 作成	データ統合を使用して、ソース・システムとターゲット・システム間でデータを統合するマッピングを作成します。ユーザーは様々な実行時オプションを使用してデータ・ルールを定義できます。	パワー・ユーザー
ダッシュボード - 管理	操作ダッシュボードを含め、すべてのダッシュボードを構築および管理します。この役割を持つユーザーは、次のことを実行できます: <ul style="list-style-type: none"> ダッシュボードを追加、編集、複製および削除する ダッシュボードをインポートおよびエクスポートする 	<ul style="list-style-type: none"> サービス管理者 パワー・ユーザー
データ統合 - ドリルスルー	データのソース・システムヘドリル・スルーします。	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー ユーザー

表 2-3 (続き) Financial Consolidation and Close のアプリケーション役割

アプリケーション 役割	説明	この事前定義済役割に 含まれている
データ統合 - 実行	この役割を持つユーザーは、データ統合を使用してソースとターゲットの間の統合を実行します。 これがユーザーに割り当てられている唯一の役割である場合、かつパワー・ユーザーまたはサービス管理者でない場合、統合の詳細を表示することもできますが、変更を加えることはできません。	パワー・ユーザー
ドキュメント - 管理	ドキュメントを構築および管理します。この役割を持つユーザーは、次のことを実行できます: <ul style="list-style-type: none"> 設定された権限に基づいて、ドキュメントを追加、編集、複製および削除する ドキュメントをインポートおよびエクスポートする 	サービス管理者
タスク・リスト - アクセスの管理	他のユーザーにタスクを割り当てます。	パワー・ユーザー
タスク・マネージャ - 承認者	タスク・マネージャのタスクの承認者として適格です	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者 ユーザー
タスク・マネージャ - アーティファクト - 管理	アラート、通貨、組織など、タスク・マネージャのすべてのアーティファクトを管理します	サービス管理者
タスク・マネージャ - 担当者	タスク・マネージャのタスクの担当者として適格です	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者 ユーザー
タスク・マネージャ - 監査 - 表示	監査履歴情報を表示します	サービス管理者
タスク・マネージャ - カスタム・レポート - 管理	カスタム・レポートを設計します	サービス管理者
タスク・マネージャ - 操作ダッシュボード - 管理	操作ダッシュボードを構成します	サービス管理者
タスク・マネージャ - パブリック・フィルタとビュー - 管理	フィルタとビューを公開して、全員がアクセスできるようにします	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者
タスク・マネージャ - システム・サービスと設定 - 管理	アプリケーションのシステム・サービスとシステム設定を定義します	サービス管理者
タスク・マネージャ - タスク - 管理	タスクとテンプレート、スケジュールを設計および管理します	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者
タスク・マネージャ - ユーザーとチーム - 管理	ユーザーとチームを管理します	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者

脚注: この役割はいずれの事前定義済役割にもマップされず、アクティブ化するにはユーザーまたはグループへの割当てが必要です

フリーフォーム

次の表では、フリーフォームのアプリケーション役割をリストして説明するとともに、それらを事前定義済役割にマップします。

 **Note:**

事前定義済役割へのマッピングがないアプリケーション内の役割については、ユーザーまたはグループへの個別の割当てが必要です。このような割当てがなければ、ユーザーはアプリケーション役割に関連するアクティビティに従事できません。たとえば、次の表でいずれの事前定義済役割にも関連付けられていないアドホック - 読取り専用ユーザーの役割の機能をアクティブ化するには、ユーザーに役割を明示的に付与する必要があります。この機能は、いずれの事前定義済役割にも自動的に含まれません。

Table 2-4 フリーフォームのアプリケーション役割

アプリケーション役割	説明	この事前定義済役割に含まれている
アクセス制御 - 管理	グループの管理、グループまたはユーザーへのアプリケーション役割の割当て、およびユーザー・セキュリティに関するレポートの生成を行います。	サービス管理者
アクセス制御 - 表示	役割の割当てレポート、ユーザー・ログイン・レポート、ユーザー・グループ・レポートなど、ユーザー・セキュリティに関するレポートを表示しますが、アクセス制御でアプリケーション役割の割当てやグループの管理を行ったり、その他の更新操作を実行することはできません。	サービス管理者
アドホック - 作成	アド・ホック・グリッドの作成、表示、変更および保存を行います。	パワー・ユーザー
アドホック - 読取り専用ユーザー	すべてのアド・ホック機能を実行しますが、アド・ホック・グリッドに書き戻したり、 Data Management を使用してデータをロードしたりすることはできません。	脚注 を参照してください
アドホック - ユーザー	アド・ホック・グリッドの表示や変更およびアド・ホック操作を行います。アド・ホック・ユーザーはアド・ホック・グリッドを保存できません。	ユーザー
お知らせ - 管理	お知らせを構築および管理します。この役割を持つユーザーは、お知らせを追加、編集、複製および削除できます。	サービス管理者
アプリケーション一括割当て	フォーム・グリッド内で一括割当てルールを実行します。	サービス管理者
データ統合 - 作成	データ統合を使用して、ソース・システムとターゲット・システム間でデータを統合するマッピングを作成します。ユーザーは様々な実行時オプションを使用してデータ・ルールを定義できます。	パワー・ユーザー
データ統合 - ドリルスルー	データのソース・システムヘドリル・スルーします。	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー ユーザー
データ統合 - 実行	この役割を持つユーザーは、データ統合を使用してソースとターゲットの間の統合を実行します。 これがユーザーに割り当てられている唯一の役割である場合、かつパワー・ユーザーまたはサービス管理者でない場合、統合の詳細を表示することもできますが、変更を加えることはできません。	パワー・ユーザー
ダッシュボード - 管理	プランニングおよび操作ダッシュボードを構築および管理します。この役割を持つユーザーは、次のことを行います： <ul style="list-style-type: none"> 設定された権限に基づいて、ダッシュボードを追加、編集、複製および削除する ダッシュボードをインポートおよびエクスポートする 	サービス管理者

Table 2-4 (Cont.) フリーフォームのアプリケーション役割

アプリケーション役割	説明	この事前定義済役割に含まれている
ドキュメント - 管理	ドキュメントを構築および管理します。この役割を持つユーザーは、次のことを実行できます： <ul style="list-style-type: none"> 設定された権限に基づいて、ドキュメントを追加、編集、複製および削除する ドキュメントをインポートおよびエクスポートする 	サービス管理者
タスク・リスト - アクセスの管理	他のユーザーにタスクを割り当てます。	パワー・ユーザー
脚注: この役割はいずれの事前定義済役割にもマップされず、アクティブ化するにはユーザーまたはグループへの割当てが必要です		

Narrative Reporting

次の表では、Narrative Reporting のアプリケーション役割をリストして説明するとともに、それらを事前定義済役割にマップします。

Table 2-5 Narrative Reporting のアプリケーション役割

アプリケーション役割	説明	この事前定義済役割に含まれている
アクセス制御 - 管理	グループの管理、グループまたはユーザーへのアプリケーション役割の割当て、およびユーザー・セキュリティに関するレポートの生成を行います。	サービス管理者
アクセス制御 - 表示	役割の割当てレポート、ユーザー・ログイン・レポート、ユーザー・グループ・レポートなど、ユーザー・セキュリティに関するレポートを表示しますが、アクセス制御でアプリケーション役割の割当てやグループの管理を行ったり、その他の更新操作を実行することはできません。	サービス管理者
ライブラリ - 管理	フォルダ(ルート・レベル・フォルダを含む)を作成します。	<ul style="list-style-type: none"> ライブラリ管理者 パワー・ユーザー サービス管理者
レポート - 管理	レポート・パッケージ、レポート、ブックおよびバースト定義を作成します。	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー レポート管理者 サービス管理者

Oracle Enterprise Data Management

次の表では、Oracle Enterprise Data Management のアプリケーション役割をリストして説明するとともに、それらを事前定義済役割にマップします。

Table 2-6 Oracle Enterprise Data Management のアプリケーション役割

アプリケーション役割	説明	この事前定義済役割に含まれている
アクセス制御 - 管理	グループの管理、グループまたはユーザーへのアプリケーション役割の割当て、およびユーザー・セキュリティに関するレポートの生成を行います。	サービス管理者

Table 2-6 (Cont.) Oracle Enterprise Data Management のアプリケーション役割

アプリケーション役割	説明	この事前定義済役割に含まれている
アクセス制御 - 表示	役割の割当レポート、ユーザー・ログイン・レポート、ユーザー・グループ・レポートなど、ユーザー・セキュリティに関するレポートを表示しますが、アクセス制御でアプリケーション役割の割当てやグループの管理を行ったり、その他の更新操作を実行することはできません。	サービス管理者
アプリケーション - 作成	Oracle Enterprise Data Management でアプリケーションを登録します。アプリケーションを登録するユーザーは「アプリケーションの所有者」権限を割り当てられます。このユーザーは、デフォルトのアプリケーション・ビューのビュー所有者としても割り当てられます。	サービス管理者
監査	トランザクション履歴などの監査関連情報を表示し、Oracle Enterprise Data Management のデータの変更を要求します。	サービス管理者
移行 - 管理	EPM 自動化またはアプリケーション画面を使用して、日次メンテナンス開始時間を変更します。移行を使用して、アプリケーションからスナップショットおよびアーティファクトをエクスポートおよびインポートします。この役割を持つユーザーは、スナップショットを移行することでアプリケーションを作成し、作成したアプリケーションを削除できます。この役割を持つユーザーは、環境をクローニングできません。	サービス管理者
ビュー - 作成	この役割を持つユーザーは、ビューを作成してメタデータを操作できます。これらはデフォルトの所有者であるため、ビューに対する権限を他のユーザーに付与することもできます。ビューを編集または削除する権限を保持します。	サービス管理者

Planning

次の表では、Planning のアプリケーション役割をリストして説明するとともに、それらを事前定義済役割にマップします。Planning アプリケーション・タイプには、カスタム、フリーフォーム、Planning モジュール、プレディクティブ資金予測、Strategic Workforce Planning および Sales Planning が含まれます。

Table 2-7 Planning のアプリケーション役割

アプリケーション役割	説明	この事前定義済役割に含まれている
アクセス制御 - 管理	グループの管理、グループまたはユーザーへのアプリケーション役割の割当て、およびユーザー・セキュリティに関するレポートの生成を行います。	サービス管理者
アクセス制御 - 表示	役割の割当レポート、ユーザー・ログイン・レポート、ユーザー・グループ・レポートなど、ユーザー・セキュリティに関するレポートを表示しますが、アクセス制御でアプリケーション役割の割当てやグループの管理を行ったり、その他の更新操作を実行することはできません。	サービス管理者
アドホック - 作成	アド・ホック・グリッドの作成、表示、変更および保存を行います。	パワー・ユーザー

Table 2-7 (Cont.) Planning のアプリケーション役割

アプリケーション 役割	説明	この事前定義済役割に 含まれている
アドホック - 読取り専用ユーザー	すべてのアド・ホック機能を実行しますが、アド・ホック・グリッドに書き戻したり、 Data Management を使用してデータをロードしたりすることはできません。	脚注を参照
アドホック - ユーザー	アド・ホック・グリッドの表示や変更およびアド・ホック操作を行います。アド・ホック・ユーザーはアド・ホック・グリッドを保存できません。	ユーザー
お知らせ - 管理	お知らせを構築および管理します。この役割を持つユーザーは、お知らせを追加、編集、複製および削除できます。	サービス管理者
アプリケーション - 一括割当	フォーム・グリッド内で一括割当てルールを実行します。	サービス管理者
承認 - 管理	手動でプロセスの所有権を取得して、承認の問題を解決します。承認所有権割当て者、承認プロセス・デザイナー、承認スーパーバイザといった役割が含まれます。通常、この役割は、地域を担当し、その地域の承認プロセスを制御する必要はあるが、サービス管理者の役割は必要としないビジネス・ユーザーに割り当てられます。次のタスクを行います： <ul style="list-style-type: none"> 承認プロセスの制御 書込みアクセス権を持つ Planning ユニットに対するアクションの実行 担当内の組織の所有者とレビュー担当者の割当て 副ディメンションの変更または検証ルールの更新 	サービス管理者
承認 - 所有権の割当	ユーザーが書込みアクセス権を持つプランニング・ユニット階層のメンバーに対して次のタスクを実行します： <ul style="list-style-type: none"> 所有者の割当て レビュー担当者の割当て 通知対象のユーザーの指定 	パワー・ユーザー
承認 - プロセスの設計	承認所有権割当て者役割が含まれます。さらに、書込みアクセス権を持つプランニング・ユニット階層のメンバーに対して次のタスクを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> 副ディメンションと書込みアクセス権を持つエンティティのメンバーの変更 プランニング・ユニット階層のシナリオとバージョン割当ての変更 ユーザーがアクセス権を持つデータ・フォームのデータ検証ルールの編集 	脚注を参照してください
承認 - 監視	プランニング・ユニットを所有していない場合でも、ユーザーが書込みアクセス権を持つプランニング・ユニット階層のメンバーに対して次のタスクを実行します。このユーザーは、所有していないプランニング・ユニットのデータは変更できません。 <ul style="list-style-type: none"> プランニング・ユニットの停止と開始 プランニング・ユニットに対する任意のアクション 	パワー・ユーザー
ダッシュボード - 管理	プランニングおよび操作ダッシュボードを構築および管理します。この役割を持つユーザーは、次のことを実行できます： <ul style="list-style-type: none"> 設定された権限に基づいて、ダッシュボードを追加、編集、複製および削除する ダッシュボードをインポートおよびエクスポートする 	サービス管理者

Table 2-7 (Cont.) Planning のアプリケーション役割

アプリケーション 役割	説明	この事前定義済役割に 含まれている
データ統合 - 作成	データ統合を使用して、ソース・システムとターゲット・システム間でデータを統合するマッピングを作成します。ユーザーは様々な実行時オプションを使用してデータ・ルールを定義できます。	パワー・ユーザー
データ統合 - ドリルスルー	データのソース・システムへドリル・スルーします。	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー ユーザー
データ統合 - 実行	この役割を持つユーザーは、データ統合を使用してソースとターゲットの間の統合を実行します。 これがユーザーに割り当てられている唯一の役割である場合、かつパワー・ユーザーまたはサービス管理者でない場合、統合の詳細を表示することもできますが、変更を加えることはできません。	パワー・ユーザー
ドキュメント - 管理	ドキュメントを構築および管理します。この役割を持つユーザーは、次のことを実行できます: <ul style="list-style-type: none"> 設定された権限に基づいて、ドキュメントを追加、編集、複製および削除する ドキュメントをインポートおよびエクスポートする 	サービス管理者
タスク・リスト - アクセスの管理	他のユーザーにタスクを割り当てます。	パワー・ユーザー
タスク・マネージャ - 承認者	タスク・マネージャのタスクの承認者として適格です	<ul style="list-style-type: none"> サービス管理者 パワー・ユーザー ユーザー
タスク・マネージャ - アーティファクト - 管理	アラート、通貨、組織など、タスク・マネージャのすべてのアーティファクトを管理します	サービス管理者
タスク・マネージャ - 担当者	タスク・マネージャのタスクの担当者として適格です	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者 ユーザー
タスク・マネージャ - 監査 - 表示	監査履歴情報を表示します	サービス管理者
タスク・マネージャ - カスタム・レポート - 管理	カスタム・レポートを設計します	サービス管理者
タスク・マネージャ - 操作ダッシュボード - 管理	操作ダッシュボードを構成します	サービス管理者
タスク・マネージャ - パブリック・フィルタとビュー - 管理	フィルタとビューを公開して、全員がアクセスできるようにします	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者
タスク・マネージャ - システム・サービスと設定 - 管理	アプリケーションのシステム・サービスとシステム設定を定義します	サービス管理者
タスク・マネージャ - タスク - 管理	タスクとテンプレート、スケジュールを設計および管理します	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者
タスク・マネージャ - ユーザーとチーム - 管理	ユーザーとチームを管理します	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者

脚注: この役割はいずれの事前定義済役割にもマップされず、アクティブ化するにはユーザーまたはグループへの割当てが必要です

Profitability and Cost Management

次の表では、Profitability and Cost Management のアプリケーション役割をリストして説明するとともに、それらを事前定義済役割にマップします。

Table 2-8 Profitability and Cost Management アプリケーションの役割

アプリケーション 役割	説明	この事前定義済役割に含まれている
アクセス制御 - 管理	グループの管理、グループまたはユーザーへのアプリケーション役割の割当て、およびユーザー・セキュリティに関するレポートの生成を行います。	サービス管理者
アクセス制御 - 表示	役割の割当てレポート、ユーザー・ログイン・レポート、ユーザー・グループ・レポートなど、ユーザー・セキュリティに関するレポートを表示しますが、アクセス制御でアプリケーション役割の割当てやグループの管理を行ったり、その他の更新操作を実行することはできません。	サービス管理者
データ統合 - 管理者	データ統合のすべての機能アクティビティを実行します。この役割を持つユーザーは、次のものを作成および実行します： <ul style="list-style-type: none"> ソース・システムとターゲット・システム間の統合 パイプライン・アクティビティ EPM 統合エージェントを使用したオンプレミス・ソースからのデータおよびメタデータの抽出および変換 	サービス管理者
移行 - 管理	アプリケーションからのスナップショットおよびアーティファクトのエクスポートとインポート、スナップショットの移行によるアプリケーションの作成、および作成されたアプリケーションの削除を行うことができます。ただし、環境をクローニングすることはできません。さらに、日次メンテナンスの開始時間とタイムゾーンを表示および調整できます。	サービス管理者

Tax Reporting

次の表では、Tax Reporting のアプリケーション役割をリストして説明するとともに、それらを事前定義済役割にマップします。

 **Note:**

事前定義済役割へのマッピングがないアプリケーション内の役割については、ユーザーまたはグループへの個別の割当てが必要です。このような割当てがなければ、ユーザーはアプリケーション役割に関連するアクティビティに従事できません。たとえば、次の表でいずれの事前定義済役割にも関連付けられていないアドホック - 読取り専用ユーザーの役割の機能をアクティブ化するには、ユーザーに役割を明示的に付与する必要があります。この機能は、いずれの事前定義済役割にも自動的に含まれません。

Table 2-9 Tax Reporting のアプリケーション役割

アプリケーション役割	説明	この事前定義済役割に含まれている
アクセス制御 - 管理	グループの管理、グループまたはユーザーへのアプリケーション役割の割当て、および使用可能なレポートの生成と表示を含め、アクセス制御を使用してすべてのアクティビティを実行します。	サービス管理者
アクセス制御 - 表示	アクセス制御を使用して、役割の割当てレポート、ユーザー・ログイン・レポート、ユーザー・グループ・レポートなどのユーザー・セキュリティ・レポートを表示します。ただし、アクセス制御でアプリケーション役割の割当てやグループの管理を行ったり、その他の更新操作を実行することはできません。	サービス管理者
アドホック - 作成	アド・ホック・グリッドの作成、表示、変更および保存を行います。	パワー・ユーザー
アドホック - 読取り専用ユーザー	すべてのアド・ホック機能を実行しますが、アド・ホック・グリッドに書き戻したり、 Data Management を使用してデータをロードしたりすることはできません。	脚注 を参照してください
アドホック - ユーザー	アド・ホック・グリッドの表示や変更およびアド・ホック操作を行います。アド・ホック・ユーザーはアド・ホック・グリッドを保存できません。	ユーザー
お知らせ - 管理	「ようこそ」パネルでユーザーに表示されるお知らせを管理します。これらは、システム・メンテナンスやジョブの実行など、将来のイベントを示すことができます。	パワー・ユーザー
アプリケーション - 一括割当て	フォーム・グリッド内で一括割当てルールを実行します。	サービス管理者
承認 - 管理	手動でプロセスの所有権を取得して、承認の問題を解決します。承認所有権割当て者、承認プロセス・デザイナー、承認スーパーバイザといった役割が含まれます。通常、この役割は、地域を担当し、その地域の承認プロセスを制御する必要はあるが、サービス管理者の役割は必要としないビジネス・ユーザーに割り当てられます。次のタスクを行います： <ul style="list-style-type: none"> 承認プロセスの制御 書込みアクセス権を持つ Planning ユニットに対するアクションの実行 担当内の組織の所有者とレビュー担当者の割当て 副ディメンションの変更または検証ルールの更新 	サービス管理者
承認 - 所有権の割当て	ユーザーが書込みアクセス権を持つプランニング・ユニット階層のメンバーに対して次のタスクを実行します： <ul style="list-style-type: none"> 所有者の割当て レビュー担当者の割当て 通知対象のユーザーの指定 	パワー・ユーザー
承認 - プロセスの設計	承認所有権割当て者役割が含まれます。さらに、書込みアクセス権を持つプランニング・ユニット階層のメンバーに対して次のタスクを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> 副ディメンションと書込みアクセス権を持つエンティティのメンバーの変更 プランニング・ユニット階層のシナリオとバージョン割当ての変更 ユーザーがアクセス権を持つデータ・フォームのデータ検証ルールの編集 	脚注 を参照

Table 2-9 (Cont.) Tax Reporting のアプリケーション役割

アプリケーション役割	説明	この事前定義済役割に含まれている
承認 - 監視	<p>プランニング・ユニットを所有していない場合でも、ユーザーが書き込みアクセス権を持つプランニング・ユニット階層のメンバーに対して次のタスクを実行します。このユーザーは、所有していないプランニング・ユニットのデータは変更できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> プランニング・ユニットの停止と開始 プランニング・ユニットに対する任意のアクション 	パワー・ユーザー
ダッシュボード - 管理	<p>カスタム・ダッシュボードを構築および管理します。この役割を持つユーザーは、次のことを実行できます：</p> <ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスの構成 追加、編集、複製および削除 インポートおよびエクスポート 	サービス管理者
データ統合 - 作成	<p>データ統合を使用して、ソース・システムとターゲット・システム間でデータを統合するマッピングを作成します。ユーザーは様々な実行時オプションを使用してデータ・ルールを定義できます。</p>	パワー・ユーザー
データ統合 - ドリルスルー	<p>データのソース・システムヘドリル・スルーします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー ユーザー
データ統合 - 実行	<p>この役割を持つユーザーは、データ統合を使用してソースとターゲットの間の統合を実行します。</p> <p>これがユーザーに割り当てられている唯一の役割である場合、かつパワー・ユーザーまたはサービス管理者でない場合、統合の詳細を表示することもできますが、変更を加えることはできません。</p>	パワー・ユーザー
ドキュメント - 管理	<p>ドキュメントを構築および管理します。この役割を持つユーザーは、次のことを実行できます：</p> <ul style="list-style-type: none"> ドキュメントに対して設定された権限に基づいて、ドキュメントを追加、編集、複製および削除する ドキュメントをインポートおよびエクスポートする 	サービス管理者
タスク・リスト - アクセスの管理	<p>他のユーザーにタスクを割り当てます。</p>	パワー・ユーザー
タスク・マネージャ - 承認者	<p>タスク・マネージャのタスクの承認者として適格です</p>	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者 ユーザー
タスク・マネージャ - アーティファクト - 管理	<p>アラート、通貨、組織など、タスク・マネージャのすべてのアーティファクトを管理します</p>	サービス管理者
タスク・マネージャ - 担当者	<p>タスク・マネージャのタスクの担当者として適格です</p>	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者 ユーザー
タスク・マネージャ - 監査 - 表示	<p>監査履歴情報を表示します</p>	サービス管理者
タスク・マネージャ - カスタム・レポート - 管理	<p>カスタム・レポートを設計します</p>	サービス管理者
タスク・マネージャ - 操作ダッシュボード - 管理	<p>ダッシュボードを構成します</p>	サービス管理者

Table 2-9 (Cont.) Tax Reporting のアプリケーション役割

アプリケーション役割	説明	この事前定義済役割に含まれている
タスク・マネージャ - パブリック・フィルタとビュー - 管理	フィルタとビューを公開して、全員がアクセスできるようにします	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者
タスク・マネージャ - システム・サービスと設定 - 管理	アプリケーションのシステム・サービスとシステム設定を定義します	サービス管理者
タスク・マネージャ - タスク - 管理	タスクとテンプレート、スケジュールを設計および管理します	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者
タスク・マネージャ - ユーザーとチーム - 管理	ユーザーとチームを管理します	<ul style="list-style-type: none"> パワー・ユーザー サービス管理者


脚注: この役割はいずれの事前定義済役割にもマップされず、アクティブ化するにはユーザーまたはグループへの割当てが必要です

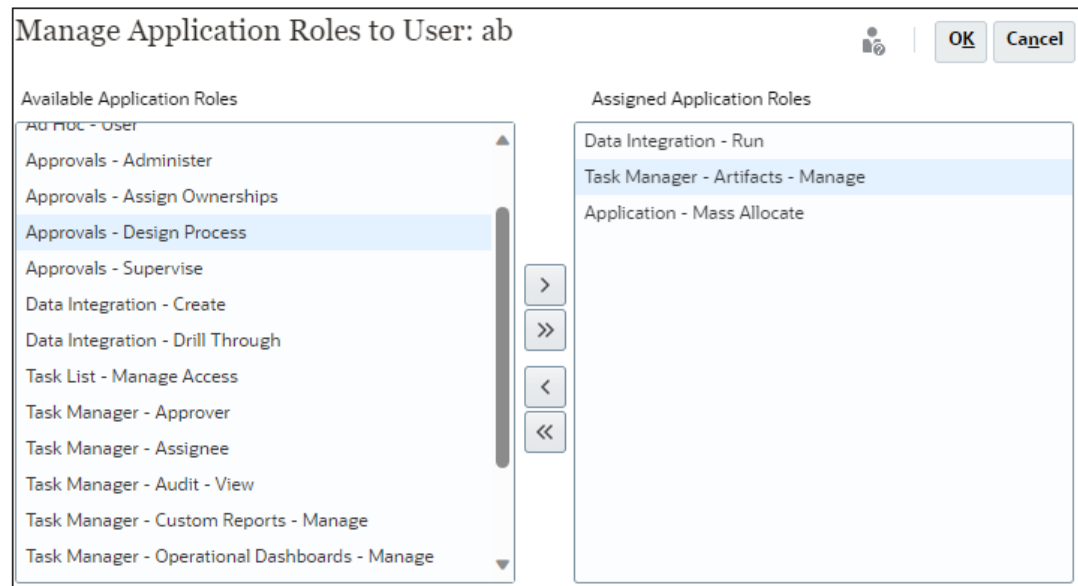
グループまたはユーザーへのアプリケーション役割の割当て

このプロセス中、サービス管理者または「アクセス制御 - 管理」のアプリケーション役割を持つユーザーは、事前定義済役割が割り当てられた EPM および IDCS グループおよびユーザーに対してアプリケーション役割を割当てまたは割当て解除できます。アプリケーション役割を自分自身に割り当てすることもできます。

グループおよびグループに割り当てられたユーザーの詳細は、[グループの管理](#)を参照してください。

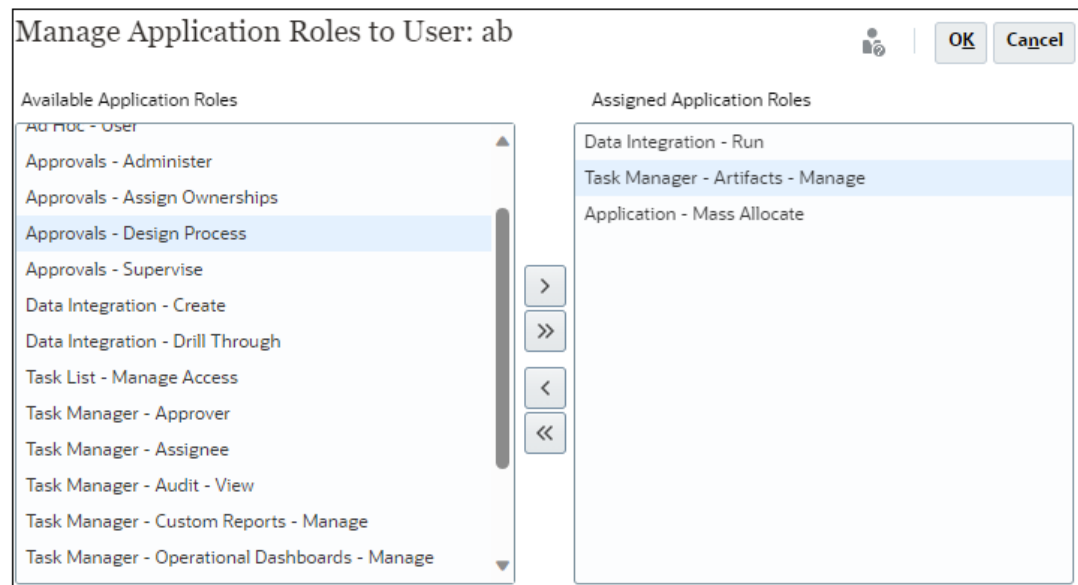
グループまたはユーザーにアプリケーション役割を割当てまたは割当て解除するには:

1. **アクセス制御**を開きます。[アクセス制御のオープン](#)を参照してください。
2. 「**アプリケーション役割の管理**」タブをクリックします。
3. ユーザーまたはグループを検索します。ドロップダウン・リストで、「**ユーザー**」または「**グループ**」を選択します。検索機能の使用手順は、[検索の使用](#)を参照してください。
検索条件に一致するユーザーまたはグループ(EPM または IDCS)がリストされます。デフォルトで、リストは「**ユーザー・ログイン**」値と、その後「**グループ名**」値(グループ検索の場合)でソートされます。
4. ユーザーまたはグループの  (**アクション**)をクリックし、「**役割の管理**」を選択します。
5. ユーザーまたはグループにアプリケーション役割を割り当てするには、「**使用可能なアプリケーション役割**」のリストから選択し、右矢印ボタンをクリックします。



各ビジネス・プロセスに適用されるアプリケーション役割について学習するには、[アプリケーション・レベルでの役割割当ての管理](#)を参照してください。

6. アプリケーション役割を割当て解除する場合は、「**割当済アプリケーション役割**」のリストから選択し、左矢印キーをクリックします。



7. 「**OK**」をクリックして、ユーザーまたはグループのアプリケーション役割の割当てを完了します。
8. 「**OK**」を再度クリックして、「**アプリケーション役割の管理**」タブに戻ります。

3

レポートの生成

サービス管理者またはアクセス制御 - 管理のアプリケーション役割を持つユーザーは、これらのレポートを生成して、役割の割当てを分析および管理できます:

- [ユーザーまたはグループの役割の割当てレポートの生成](#)
- [環境の役割の割当てレポートの表示](#)
- [ユーザー・ログイン・レポートの表示](#)
- [ユーザー・グループ・レポートの表示](#)

レポートで示されたレポート生成時間は、ブラウザ・タイム・ゾーンに基づく時刻を反映しません(ローカル・システム時計)。

レポートの CSV バージョンについて

レポートをエクスポートすると、レポートのカンマ区切り値(CSV)バージョンを作成できます。事前定義済役割に割り当てられているユーザー数に加えて、レポートの CSV バージョンには次のことが表示されます:

- 各ユーザーが割り当てられている事前定義済役割。ユーザーに割り当てられた事前定義済役割ごとに個別の行に表示されます。事前定義済役割に組み込まれたアプリケーション役割はリストされません。
- ユーザーが直接またはグループを通じて割り当てられているアプリケーション役割。ユーザーに割り当てられたアプリケーション役割ごとに個別の行に表示されます。
- グループがどの役割にも割り当てられていない場合、ユーザーが割り当てられている先のグループはリストされません。
- レポートの現在のビューからの情報のみが CSV にエクスポートされます。たとえば、レポートをフィルタして特定のユーザーの役割割当てを表示した場合、エクスポートされた CSV ファイルには、そのユーザーの割当てのみが含まれます。

トラブルシューティング


*オペレーション・ガイド*のレポートの問題のトラブルシューティングを参照してください。

ユーザーまたはグループの役割の割当てレポートの生成

役割の割当てレポートでは、コンプライアンス・レポート用にユーザー・アクセスを追跡できます。

このレポートには、事前定義済役割が割り当てられているすべてのアクティブ・ユーザーが表示されます。非アクティブ化されたユーザーは、このレポートに反映されません。ユーザーが属する IDCS または EPM グループは、そのグループがユーザーへのアプリケーション役割の割当てに使用されていないと、リストされません。サービス管理者または「アクセス制御 - 管理」のアプリケーション役割を持つユーザーは、役割の割当てレポートを使用して、ユーザーまたはグループの割り当てられた事前定義済役割およびアプリケーション役割を確認します。

ユーザーまたはグループの役割の割当レポートを生成するには:

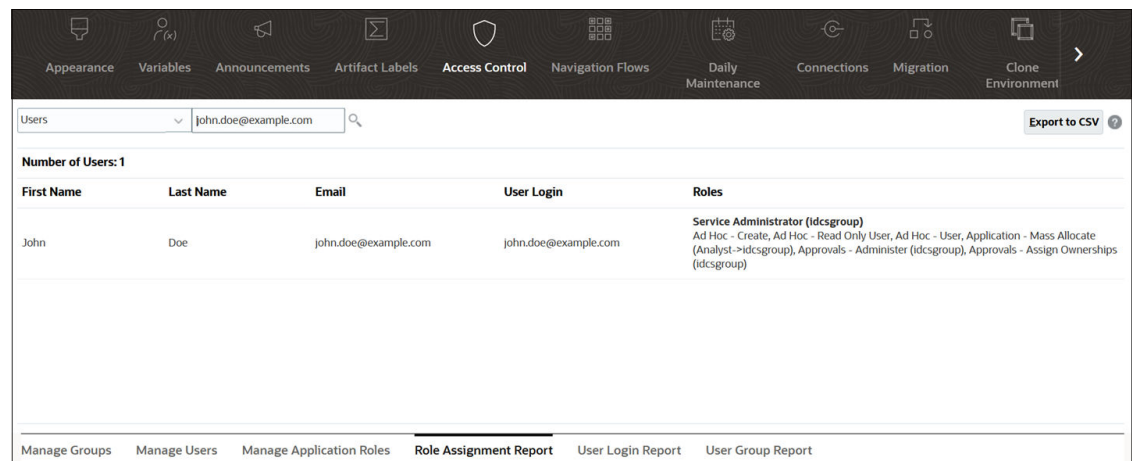
1. **アクセス制御**を開きます。[アクセス制御のオープン](#)を参照してください。
2. 「**アプリケーション役割の管理**」タブをクリックします。
3. ユーザーまたはグループを検索します。ドロップ・ダウン・リストから「**ユーザー**」または「**グループ**」を選択します。検索機能の使用手順は、[検索の使用](#)を参照してください。
検索条件に一致するユーザーまたはグループがリストされます。デフォルトで、レポートは「**ユーザー・ログイン**」の値と、その後「**グループ名**」(グループ検索の場合)でソートされます。
4. ユーザーまたはグループの  をクリックし、「**役割の割当レポート**」を選択します。
5. **オプション**: 「**CSV にエクスポート**」をクリックして、レポートを CSV ファイルにエクスポートします。

環境の役割の割当レポートの表示

サービス管理者またはアクセス制御 - 管理のアプリケーション役割を持つユーザーは、役割の割当レポートを使用して、事前定義済役割(太字)およびアプリケーション・レベルの役割を通して割り当てられた、すべてのユーザーのアクセス権を確認します。このレポートには、事前定義済役割が割り当てられているすべてのアクティブ・ユーザーが表示されます。非アクティブ化されたユーザーは、このレポートに反映されません。

継承された役割は、継承上の情報と同様に、ユーザーごとに 1 行で表示されます。

IDCS グループに事前定義済役割またはアプリケーション役割が割り当てられている場合、このレポートには、IDCS グループを介してユーザーに間接的に割り当てられている事前定義済役割が表示されます。たとえば、ユーザー John Doe が idcsgroup のメンバーとして割り当てられていて、このグループが「サービス管理者」事前定義済役割に割り当てられているとします。このシナリオでは、役割の割当レポートに John Doe の役割割当て情報の一部として次が表示されます。:



First Name	Last Name	Email	User Login	Roles
John	Doe	john.doe@example.com	john.doe@example.com	Service Administrator (idcsgroup) Ad Hoc - Create, Ad Hoc - Read Only User, Ad Hoc - User, Application - Mass Allocate (Analyst->idcsgroup), Approvals - Administer (idcsgroup), Approvals - Assign Ownerships (idcsgroup)

役割の割当レポートは CSV ファイルとしてエクスポート可能であり、これは Microsoft Excel などのプログラムを使用して開いたり、コンピュータに保存することができます。CSV 形式の役割の割当レポートでは、役割の割当てごとに 1 行が使用されます。

User Login	First Name	Last Name	Email	Role	Granted through Group
john.doe@example.com	John	Doe	john.doe@example.com	Service Administrator	idcsgroup
john.doe@example.com	John	Doe	john.doe@example.com	Ad Hoc - Create	
john.doe@example.com	John	Doe	john.doe@example.com	Ad Hoc - Read Only User	
john.doe@example.com	John	Doe	john.doe@example.com	Ad Hoc - User	
john.doe@example.com	John	Doe	john.doe@example.com	Application - Mass Allocate	Analyst->idcsgroup
john.doe@example.com	John	Doe	john.doe@example.com	Approvals - Administer	idcsgroup
john.doe@example.com	John	Doe	john.doe@example.com	Approvals - Assign Ownerships	idcsgroup

役割の割当レポートを開くには:

1. **アクセス制御**を開きます。[アクセス制御のオープン](#)を参照してください。
2. 「**役割の割当レポート**」をクリックします。
役割の割当レポートが表示されます。
3. **オプション**: レポートをフィルタして次を表示します。
 - 特定のユーザーの役割割当て。ドロップ・ダウン・リストから「**ユーザー**」を選択し、部分検索文字列を入力します。検索機能の使用手順は、[検索の使用](#)を参照してください。
 - 特定の役割に割り当てられたユーザー。ドロップ・ダウン・リストから「**役割**」を選択し、部分役割名を入力します。検索機能の使用手順は、[検索の使用](#)を参照してください。

ノート:

ユーザーは多くの役割に割り当てられる場合があります。そのような場合、特定の役割についてフィルタしている場合でも、レポートにはユーザーのすべての役割がリストされます。


役割の割当レポートが表示されます。デフォルトで、レポートは「**ユーザー・ログイン**」値と、その後「**役割**」のアプリケーション役割(役割による検索の場合)でソートされます。事前定義済役割は太字フォントで表示されますが、アプリケーション役割は太字以外のフォントで表示されます。

4. **オプション**: 「**CSV にエクスポート**」をクリックして、レポートを CSV ファイルにエクスポートします。現在表示されているレポートからの情報のみが CSV にエクスポートされることに注意してください。

ユーザー・ログイン・レポートの表示

ユーザー・ログイン・レポートには、デフォルトにより、過去 24 時間に環境にサインインしたユーザーに関する情報が含まれています。ユーザーのログイン元となるコンピュータの IP アドレスと、ユーザーが環境にアクセスした日時(UTC)がリストされます。

サービス管理者または「アクセス制御 - 管理」のアプリケーション役割を持つユーザーは、このレポートをカスタム日付範囲または過去 30 日間、過去 90 日間および過去 120 日間で再生成できます。また、検索文字列としてユーザーの名、姓またはユーザー ID の部分文字列を使用し、特定のユーザーの情報のみを表示するようレポートをフィルタできます。

 **ノート:**

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management では、ユーザー・ログイン監査履歴が保持されるのは過去 120 日間のみです。

ユーザー・ログイン・レポートを再生成するには:

1. **アクセス制御**を開きます。[アクセス制御のオープン](#)を参照してください。
2. **ユーザー・ログイン・レポート**をクリックします。
過去 1 日間に環境にサインインしたすべてのユーザーがリストされるレポートが表示されます。
3. レポートを生成する期間(過去 1 日間、過去 30 日間、過去 90 日間、過去 120 日間)を選択します。カスタム日付範囲を指定するには、「**日付範囲**」を選択してから開始日と終了日を選択します。
4. **オプション:** レポートに含めるユーザーを選択します。検索機能の使用手順は、[検索の使用](#)を参照してください。
ユーザー・ログイン・レポートが表示されます。デフォルトで、レポートは「**アクセス日時**」の値でソートされます。
5. **オプション:** 「**CSV にエクスポート**」をクリックして、表示されたレポートを CSV ファイルとしてエクスポートします。
6. 「**取消し**」をクリックしてレポートを閉じます。

ユーザー・グループ・レポートの表示

ユーザー・グループ・レポートには、次の EPM グループに割り当てられたユーザーの直接または間接メンバーシップがリストされます。アクセス制御。または「アクセス制御 - 管理」のアプリケーション役割を持つユーザーは、このレポートを生成できます。

ユーザーは、グループに割り当てられるとグループの直接メンバーと見なされ、別のグループの子であるグループに割り当てられると間接メンバーと見なされます。グループに割り当てられた各ユーザーについて、レポートには、ログイン ID、氏名、電子メール ID、ユーザーが直接的または間接的に割り当てられたグループのカンマ区切りリストなどの情報がリストされます。直接グループは太字フォントで表示されますが、間接グループは太字以外のフォントで表示されます。

CSV バージョンのレポートには、「はい」または「いいえ」を使用して、ユーザーが直接的または間接的にグループに割り当てられたかが示されます。

 **ノート:**

このレポートは、Account Reconciliation および Narrative Reporting には適用されません。

ユーザー・グループ・レポートを生成するには:

1. **アクセス制御**を開きます。[アクセス制御のオープン](#)を参照してください。
2. 「**ユーザー・グループ・レポート**」をクリックします。

3. **オプション:** レポートをフィルタします。ドロップ・ダウン・リストから「**ユーザー**」または「**グループ**」を選択します。検索機能の使用手順は、[検索の使用](#)を参照してください。
ユーザー・グループ・レポートが表示されます。デフォルトで、レポートは「**ユーザー・ログイン**」値でソートされます。
4. 「**取消し**」をクリックしてレポートを閉じます。
5. **オプション:** 「**CSV にエクスポート**」をクリックして、EPM グループの名前および説明を Groups.csv ファイルにエクスポートします。
このオプションを使用して、PREDEFINED または IAM グループをエクスポートすることはできません。EPM グループが存在しない場合、「**CSV にエクスポート**」は無効になっています。このオプションを使用するには、アクセス制御に少なくとも 1 つの EPM グループが必要です。
6. **オプション:** 「**CSV からインポート**」をクリックして、EPM ユーザーのグループ割当てを CSV ファイルからアクセス制御にインポートします。
CSV ファイル形式およびその他の詳細は、[ファイルからのユーザーのグループ割当てのインポート](#)を参照してください。